乱文ごめん下さい

何時の間にか秋立もきざし時には冷々とする朝などもあります様になりました遠い唐瀬の原が黙つて横たわつてその果に屹ツ部隊の給水塔が淡い運命の象の如く知るものとして知らしめる悲しさをそゝりて見えます復員後半年をすぎようとしましてなほ病の身に追放の鞭をうけつゝ生活に斗ひ生きる命のせつなさをしみぐとみつめて居ります本日は久方に[redacted]蒙の山峡に村の小供達が御芋者居けて下さいました論はあれ人の子であり親である者の心根に如何に喪りかありませう御遺族様方の御心に思ひ侍りますれば私のみながらへし故のつくし難き何ものかに拙き筆の一層乱るゝを禁じ得ません乍ら身のすべてを捧げて皆様に御恩かへしをしなければならないのでありますが日毎く生活に追はれ只心のみにて如何とする事さえならずかくの如く失礼さして戴きます何とぞ御許し下され度く御願の申上げます私に蒙所の[redacted]戦斗の大要を想起さして戴きその英魂を葬ふと共に御遺族皆様の御健勝ねがつて奥様の多幸坊ちゃまの御成長異郷より切に御祈りするばかりであります

[illegible]

陸軍

6・13

あります以ばお寄り致し御尊顔を拝して直接お話し致したくとも考へて居ります

昭和十九年十月二十四日愈々私共の部隊にも動員下令大命は降下したのであります興奮皆様さう

と感激の此の日を何と形容してよいか此の日を永遠に忘れることは出来ないと存じます

そして多忙の出戰準備に夜を日につぎお勵みになられました此の間許可がありまして

秋も既定せられたはずでありまして其の様でありましたらこの秋こそとこなへの歌劇であった

らうと存じ上げます 私は當時部隊本部に居りましたが某中隊にて定員がありまして

その方に移りました 通稱號を高千穂部隊鹿島部隊動員部隊名を第二挺進團挺進第四

聯隊(空九九四九)として編成せられ[redacted]は聯隊本部通信班附准尉として上級職をと

つて居られたはずであります 尽びならぬ南の島に思はせつ・考ふれば雄々しくも悲しく

その出陣を秘して思出深かり川南を出發しましたのは 昭和十九年十月二十八日の夜で

ありました(路門司港へそして引續く晝夜の搭載流しい中を船も兵士も(体となり

故國門司港を出ましたのが同年十一月三日菊の佳節に方ります搭乘しました船はそ

の後(部隊が上陸後数日)比島南方にて沈みましたかの大東丸(七千屯)で、台湾の基隆

港高雄港に寄港此の時は(部を残して入浴その他のため上陸しました そして船團は比

6-14

陸軍

律賓ルソン島リンガエン湾北サンフェルナンドについたのが同年十二月　でした此の間[redacted]は非常に元氣であった様にお見うけ致します。私は[redacted]射撃[redacted]潜水艦射撃を命ぜられましたので任務上上甲板に機関銃を指揮して終始しなければならず此處に居りましたのです[redacted]は船内通信網の編成通信確保のため班長を補佐して活躍する様浪荒いバシー海峡でよく部下を指導して甲板を走って居られお姿が今の私には眼に浮ぶ様であります

北サンフェルナンド上陸後は自動車輸送にてマニラ北方南サンフェルナンドへとルソン島を北より南[redacted]断し同地の國民學校に宿泊し挺進準備をなすと共にその戦期を窺ったのであります[redacted]とは任務宿所の関係等により時折りお會ひする程度でしたが此の時も通信の先任の者として御多忙の様でありましたが非常にお元氣でした数日の後高千穂部隊はレイテ島の要衝数ヶ所に落下傘降下しました　そのうちの一八部隊主力を以ちまして夕クロバン平地に私共の部隊の主力を以て オルモック附近に命令せられたのであります[redacted]は任務の都合上同年十二月十四日頃第三次挺進隊と思ひますがオルモック北方バレンシヤー飛行場に降下せられたはずであります　その項既に私は挺進して某重要方面の戦に参加して居りましたが任務をうけ若干の部下を指揮して軍司令部（第五十五軍）[redacted]麾下當方面

6-15

担任附近に移りました時[redacted]にお逢ひしました下士官候補者等を指揮して君千の通信器等を持って居り人員は五名でしたので自衛力乏しくおこまりの様でした お話しした處が「此の様な戰況で情況は全くわからず部隊の主力には追及出来ず通信は敵の電波に捕捉せられ用に足たず困って居る故指揮下に入れて下さい」との言葉でしたので軍司令部に連絡しました處が早々許され茲に[redacted]外四名私の部下として力になって戴く事になりました私も任務の都合によりまして動員當時の部下は方々に手離しまして單身と言って良い位何も兵力を持って居りませんでしたので大いに期待し且[redacted]は私が本部に勤務して居りました頃よりよくお世話様になりまして控けて居りますので一番の先任者として私の補佐をして戴くことになったのであります

戰勢傾き我に利あらずその後私達はずっと司令部の護衛にあたったのでありますがどうしまして指揮中枢たる司令部は敵の攻撃の目標となり幾回か司令官の身辺にも危急が迫りましたが[redacted]以下よく頑張って下され護衛の任務を完ふすることが出来ました[redacted]とお遣しましたのが「タブリハン」と言ふ所で多分十二月十五日頃だったと思ひます「ブ」ートン附近の戰斗が十七日それにひきつづきまして十九日にはリボンガオ附近の戰斗勿論

6-16

敵の包囲の中のことゝて小せり合ひは連日所々に惹起戈戰はさえぎるなかったのでありますファートン附近では實に乱戰部下も大分失ひ元気なものは[redacted]と一緒に連れて来られた三名で一名は此のファートンで失ひました。ようやく斬り抜けて新設せられましたりボンガオの司令部につきました。のが十七日夜更十八日は[redacted]と残し私は將校斥候に出ました十九日は新らしく部下を戴きまして新な軍の企圖に基く任務の實行について計画研究したり編成したりしました[redacted]も勿論私の最も大切な力となり御手傳下さいました朝まだきより四圍の銃聲を耳にしてそれとなく軍の直衛隊に警戒の要を説略しておいたのですが十一時頃遂に銃撃砲撃四方よりする包圍攻撃初まる近の距離より攻撃されましたのでさりとはかねてより覚悟ありましたものの不意をうけ自分の部下を掌握する事もならず勿論部下も指揮官の許にゆく事もならず軍司令官以下一兵に至るまで應戰敵味方入り乱れ撃ち手榴弾を投げ軍刀を振ひ夕方に至る迄は何もわかりませんでした[redacted]は然始私の身辺にて敢斗その勇戰振りは私にどんなに勇気と力とさあたへた事でせう此の戰斗で[redacted]は砲弾のため軍刀装具等とはねとばされました[illegible]負傷は皆無で志気旺盛でありました夕方に至り微砲弁の射程延伸と共に敵も私共の後方をどんく前進して行きますので司令部の方々も[illegible]離脱されましたものと思ひ[illegible]

陸軍

6-13

りました私のそばには[redacted]只お一人でありました二人で色々相談の上濕地帯を通過して軍の移動したとおぼしきパロンポン方向に前進することに致しました全々方位の解りません事

葦原或は腰も没する深い濕地十何回か濁流を泳ぎ敵機の銃撃土民軍の攻撃日没後はめざめの水牛におどろかされるやら身をひそめればマラリヤ蚊におそはれ汝くに汝けない敗走のかなしみを二人で慰し合い袋のぬれたパンをなめ乍ら磁石を頼りにひたに西進して司令部の後置を捜めました二十日未明疲労と飢餓に中五十米程の川をようやく渡りました處突際に数多い鉄帽の影を見まして今や最後と二人之に斬り込みしようとよく〳〵確め近寄りますと閣下以下休憩されて居られる處でしたぬれねずみのまゝ状況を報告致し御挨拶しますと閣下もお元気で無事を喜んで下さいました丁度私は非常に高く發熱しましたが参謀長が行方不明のため直に[redacted]と命をうけて捜索に出まして運よくお供してかへりました其の後四散した部下は多くは負傷して居りましたがそれと私共の部隊関係者を集め編成しなほ[redacted]には先任者としてお骨折り願ひました おそいかゝる敵の攻撃はうべどもくつきまとふばかりで敵下ら勇敢で天晴なものと判断しました此の敵を妨害阻止して軍司令部の離脱を容易ならしむる如く努力したのであります 逐次この様に敵と抵抗し

6-18

つゞいて夕方南マタコブへそして私は他の部隊と共に此處に情報を集収しました兵力の大部を司令部と共に先ゞ出発せしめ[redacted]等と十名余り二十二日の早朝南マタコブを出発西進しました某軍曹が負傷して歩行出来ず他にも一名の傷兵がありまして急造担架に乗せ撤退兵に肩を入れると戦斗出来るものはなくなる始末で御難儀しました挙げて連日の疲労と空腹一同よろめき乍らも敵機の銃撃をよけつゝ前進しました[redacted]は何時もの如く黙々と部下を指導自ら担架をきげる等皆に率先努力してくれました出発してからどの位時間が経過しましたやら何回か休憩し敵機に前進を阻害されいくらも南マタコブより離れて居りません南マタコブの西方約五粁(四里)の地点と思ひます愈々坂路にかゝりまして峠まで二里余の山道にたどりつきました私は皆に遅れては申譯ありません故一同を休憩させては独り歩いて居たのですがお午頃一同を友側がバナ林の崖右側草地の禁所で道路の下度屈曲点でした此處に休ませ所要の警戒をなさしめ皆と五十米程離れて居ると今ゞ此時地形を利用して四周よりする不意の襲撃をうけ敵の兵力は未詳ですが何にせよ小勢つけ上りました敵は益々威を強ふ攻撃をかけましたが一同よく対抗の手段に得ました地理の位討に手榴弾を投じて徹底的に敵を撃退しましたが遠くへ逃げた一部の敵に支援軍が合流した

陸軍

6-19

のと思考されます此の折遠くにて[redacted]が殺されましたと呼ぶものがありましたので弾雨中(さんに駆寄りました下方より来た敵の銃弾により下腹部を盲貫せられ弾丸は脛部附近に止り居るものらしく直に衛生兵が手当致しましたるもの既に時到りもの言ひたげに幾度か口を動かしますが聲が出ず その瞳も力失せて参りました早やおぼつかなく思ひましたので何か言ひ残すことはないかと大聲で耳もとに呼びくりかへしましたが只何やら両手を動かすのみ口を動かすのみにて聲もなく次第に冷たくなり同じ眼差られ尽ら遂に此の地に英魂をとじめ散花せられたのであります 何にせよ敵中亦任務の途中意なる時思ふ様御葬ひ致すことは出来ず申譯なく存じて居ります敵の眼にとまりてはと急ぎ且秘かに此のバナナ林の中に埋葬 私と共に流れ遠添ひて参りました杖をちなみて墓標のしるしとして樹てました その折遺骨とまりては小骨を切断いたし遺品としては小型脱時計 小形図嚢 印鑑 御遺髪等をお預り致しましたので御安置致します

バナナの葉陰自動短銃を握って永遠に眠られた[redacted]私の腕に横たはり[redacted]平素は懇々温厚の人事に接するに断と実行の[redacted]私は此の戦によって教へられた幾つもの教訓の中に偉大な[redacted]の人格を永遠に忘れることが出来ないでしょう[redacted]と共に私

陸軍

の所へ参りました兵も前に一部申し上げました様にファートン附近(名戦死 リボンガオより傳令に出て(名戦死 リボンガオ附近にて二名戦死と推定ことごとくなくなりました これらの方々は臨時指揮下に入りましたため書類になより氏名はの論留守担当者の方々さえも解らず併せて茲に再度冥福をお祈りするばかりであります 草枕幾度[redacted]とは数前に故郷の事を語る機会も何回かありました奥様のこと坊ちゃまのこと大部御心配して居られました多分最後のお言葉 聲なき遺言も御遺族様方のこと、お察し致しますがわきて奥様様来の方々もねぎらい御子息様の御成長を祈りしたのではないかと存じ上げます 昭和二年二月初旬頃軍の集結と共に部隊主力に合しました[redacted]の固有隊長であります 通信班長[redacted]に遺骨遺品戦斗経過等一切申し送りましたがその後任務の都合上お訣れしてそのまゝとなり[redacted]の消息も不明関係者もことごとく全滅しましたのでそれ等の品も然る可く處置されたものと思ひます 私から確とは申し上げられませぬがかくして戦況上進級の件などもそのまゝになつて居られると思ひますがその様なわけですから戦死当日までもちまして准尉に進めてさしつかへなきものと存じます 若しその事でお話がありましたら地方世話部に問合わせなさるか或は当時の副官[redacted]生存(戦死者談者)としてい

6-21

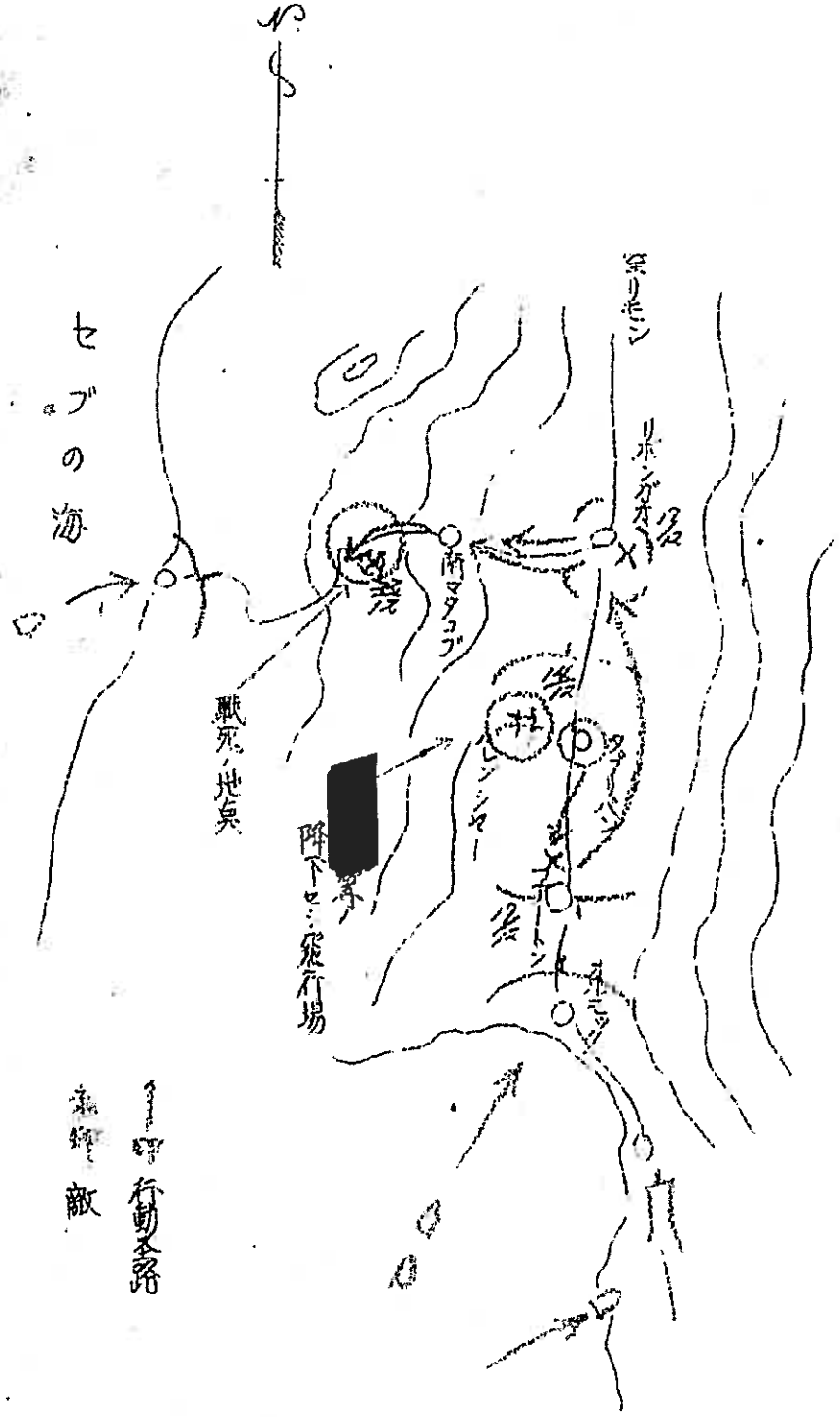
[illegible]（収容所長）として居りますれば別紙名宛の通り復員後問い合せになりますから確
認を得られると思います何とぞ[redacted]の戦中行動ご存の通りでありますれば御ふくみの上
くれぐれも御斡旋下さる様重々の御遺族係員様方御体にお変わりありま
せぬ様切にお祈り申し上げて止みません
乱筆はもう申しても今ほまとまりのつかぬ事共書連ねまして何卒悪しからず御判
讀下さいます様御願い致します
なほ本筆にて御願い申し上げたき事は本文は特別の方以外なるべく他見あれば
元下さる度く我儘にて御願い申し上げます
関係者各位にくれぐれもよろしくお傳へ下さい　不備

九月十四日　[redacted]

[redacted]様
[redacted]様
[redacted]様
御子息様
侍史

6-22

[redacted]行動要図（其一）




6-23

6-24

# 現認證明書

[redacted] 地方世話

| 死亡者 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所属部隊 | 戸籍本籍地 | 徴兵年月 | 役種 | 兵種 | 死亡階級 | 死亡階級 | 氏名 | 死亡年月日時 | 死亡場所 | 死亡区分 | 死亡非由 | 続柄 | 留守宅住所氏名 | 死亡時の状況 |
| 独混五四旅団 | [redacted] | 昭和2 | 補 | 歩 | 一等兵 | | | 昭和十九年十二月二十二日 時 分 | セブ島東海岸外八マイル近 | 戦死 | 頭部貫通銃創 | 妻 | [redacted] | 当時セブ市地方三十里地点セブ島山地ヲ北ヘ警備ニ行くと中敵ト交戦中ヲ受ケ前進中ヲ上ノ命令ニ依テ一日ヲ上リ其場ニ戦死 |

死者と関係の

戦友

右現認證明致します

昭和22年4月16日

| 現認者 | |
|---|---|
| 本籍 | [redacted] |
| 現住所 | [redacted] |
| 所属部隊 | 陸一七六〇二部隊 |
| 官等氏名 | 陸軍上等兵 [redacted] |

大川納

28-10

昭和二十一年　月　日　[redacted]公第　號

# [redacted]地方世話部　死亡者調査認定票

昭和二十一年　月　日調製
留守業務課

所属部隊名　固有名　西部軍野戦貨物廠材部　通稱名　戒一〇六八二

本籍地　[redacted]

生年月日　昭1.1.

役種　第

兵種　輜重

官等級　死亡前　上

死亡後

氏名　[redacted]

死亡年月日時　昭19.12.22 1420

死亡場所　島ノ島マニラ陸軍病院伝染病棟

死亡原因分　戰病死

傷病名　細菌性赤痢（19.12.2発病）

留守宅　現住所　[redacted]

本籍　[redacted]

氏名　[redacted]

調査認定資料及資料入手経路

遺骨は現地に於て埋葬する無し

右現認する

戒一〇六八二

陸軍主計（分隊長）

[redacted]

印

名簿所見

抹消アリ　抹消スベキモノ　記載ス

停年名簿頁

官等級

審議

判決

点検印

認定・進級・告知記録



178

中隊長よりの来信

貴主人[redacted]氏ドは宇品にて暫し教育終了后、昭一九七七[redacted]部隊長[redacted]中佐の編成と同様に本部附となり十二月中旬部隊本部と共に比島に向い高雄港出発 昭和十九年十二月二十三日 比島サンフェルナンド西方十哩の海上にて敵奥雷の攻撃を受け沈没、副官[redacted]大尉以下多数の戦死者と[redacted]氏も不幸其際戦死されたる様に聞いて居りますが 尚貴々調査問合せの上詳しい事を御知らせいたしたいと思ってゐます。 取急ぎ御知らせ迄

二月二十三日

[redacted]

[redacted]様

[redacted]

[redacted]様

28-14

# 死亡事實（現認）證明書

本籍地 [redacted]

現住所 右ニ同ジ

所屬部隊 歩兵一二八（[redacted]）

徵集年

官等級 陸軍一等兵

氏名 [redacted]

右ノ者昭和十九年十二月二十五日 [redacted] 島 分ハ[illegible] ニ於テ負傷ニ依リ戰傷病死シタルコトヲ證明（現認）ス

昭和二十一年一月十日

所屬部隊 職名 [redacted]

官等級 陸軍上等兵

氏名 [redacted]

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ併記ス

一、職名ハ中、小隊長、砲手、操縱手等ト詳記ス

（八）

61-10